

対A I I B 戦略に変化

日本や米国が中心のアジア開発銀行（ADB）と、中国が主導して設立したアジアインフラ投資銀行（A I I B）が提携した。ドイツ・フランクフルトで5日まで開かれていたADBの年次総会で発表した。日本政府は中国主導のA I I Bと距離を取ってきたが、戦略を見直す可能性がある。

事実だ。

今回の提携で、A I I Bは、パキスタンでの道路建設にADBと協調融資することで合意した。A I I Bにとっては初めて取り組む記念すべき「1号案件」だが、もともとADBが進めてきたものに「乗っかった」にすぎない。さらに今後も多くの案件で、ADBや世界銀行との協調融資になる見通しだ。

が約1100人いるADBに対し、A I I Bは約70人にとどまる。副総裁に世界銀行の出身者を充てるなど、幹部人材も「引き抜き」に頼っている。

一方、ADBにとっても提携のメリットは少なくない。A I I Bとの協調融資で、ADBの審査基準を守らせることもできる。ADBの中尾武彦総裁は記者会見で、「A I I Bの参加で資金を補える。より大きなプロジェクトもできるようになる」と話した。

A I I Bの金立群総裁は滑らかな英語で、ADB加盟の政府関係者らに語りかけた。「A I I Bは、まだ人も資源も限られている。歴史あるADBにとって脅威にはなりえない。恐れる必要はありません」

A I I Bは資本金ではADBに匹敵する規模を集めたが、人材面では専門職員

中国の財務次官を務めた金氏だけに、中国主導のA I I Bに対するADB内の警戒心を和らげようと呼びかけたとみられる。ただ、設立したてのA I I Bは、融資のための審査や貸し付けのノウハウが乏しいもの

ADBは協調融資

■ADBとA I I B

アジア開発銀行 (ADB)	アジアインフラ投資銀行 (A I I B)
発足時期	
1966年	2015年
本部	
フィリピン・マニラ	中国・北京
総裁	
中尾武彦氏 (元財務省財務官)	金立群氏 (元中国財務次官)
資本金	
約1500億ドル	1000億ドル
加盟国	
67カ国・地域	57カ国
上位出資国	
日本 (15.7%) 米国 (15.6%) 中国 (6.5%) インド (6.4%)	中国 (29.8%) インド (8.4%) ロシア (6.5%) ドイツ (4.5%)
格付け	
AAA	???

アジアのインフラ需要は、年間8千億ドルともいわれている。だが、ADBの約160億ドルにとどまる。最大の借入れ国でもあるインドのジャイトリー財務相は総会で、「ADBは手続きのスピードを速め、資金もさらに大きくする必要がある」と訴えた。

日本は米国とともにA I I Bを警戒してきた。今でも融資案件を決める常設の理事会が無いことなどを指摘し、「議決権の約26%を押さえている」中国による中国のための銀行（政府関係者）になることを心配する。



協調融資などで合意するADBの中尾総裁（右）とA I I Bの金総裁。2日、ドイツ・フランクフルト、ADB提供

しかし、A I I BとADBが接近する中、日本側にも変化が出始めている。日本はインフラ輸出を成長戦略の柱の一つに掲げており、A I I Bが実務に徹するならば、協力関係は日本にとっても利点が多い。

A I I B側は、日本の参加を待ち望んでいる。金総裁は取材に、「われわれは日米企業とともに事業を行い、専門家もリクルート（勧誘）していく。ドアはいつでも開いている」と話した。日米などが出資するADBの格付けは最高のトリプルAだが、A I I Bはまだ格付けが取れていないことも背景にある。